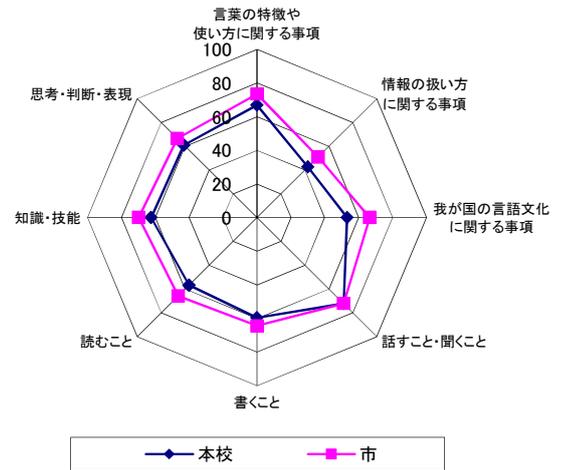


# 宇都宮市立陽光小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	言葉の特徴や使い方に関する事項	66.9	73.5	74.4
	情報の扱い方に関する事項	42.6	51.0	51.5
	我が国の言語文化に関する事項	53.2	66.5	68.8
	話すこと・聞くこと	72.3	72.3	73.7
	書くこと	59.6	64.3	66.6
	読むこと	56.7	65.8	64.9
	観点別	知識・技能	62.5	69.8
思考・判断・表現		61.0	66.5	67.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

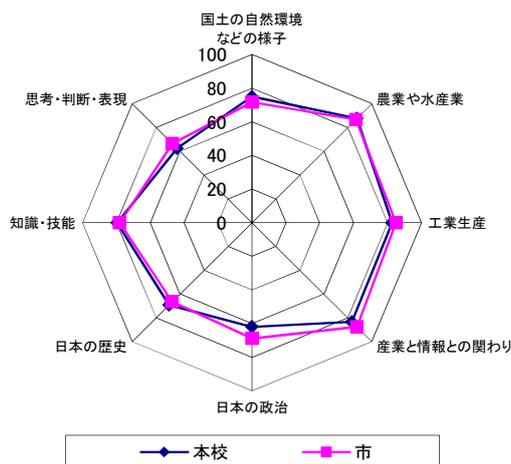
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方に関する事項	本領域の平均正答率は、市の平均よりも低い。 ●言葉に関する問題では、市の平均正答率と比べ低いものがほとんどであった。特に、敬語や文と文の接続に関する問題では、市の平均正答率より15ポイント以上低くなっている。	・敬語の使い方については、日常生活も含め継続的に指導することで、理解するだけでなく活用できる力も身に付けられるようにする。また、文と文の接続の関係については、授業において教材文を読み取る中で接続詞の前後の文などを確認し、理解できるようにしていく。
情報の扱い方に関する事項	本領域の平均正答率は、市の平均よりも低い。 ○情報と情報の関係について理解し、文章の情報を整理する問題では、市の平均正答率と同等であった。 ●情報と情報の関係について理解し、目的に応じて文章を簡単に記述する問題では、市の平均正答率と比べ17.3ポイント下回った。	・情報を取捨選択したり、整理したりする力を高めるために、国語以外の学習でも、内容を要約したり、作者の意図を自分の言葉で文章化したりするなどの活動を意図的に取り入れていく。
我が国の言語文化に関する事項	本領域の平均正答率は、市の平均よりも低い。 ●和語・漢語・外来語に関する問題では、市の平均正答率と比べ低く、13.3ポイント下回った。	・和語・漢語の違いを理解できるよう、授業の中で取り扱う言葉がどれに当たるのかを区別させるなど、言語文化に触れる機会を増やしていく。
話すこと・聞くこと	本領域の平均正答率は、市の平均と同等であった。 ○インタビューの内容を捉えて答える問題は市の平均正答率と同等、話し方の工夫を選ぶ問題は市の平均正答率と比べ高い。 ●インタビューを聞いて内容を捉えて、前後の文章に合わせて簡単な文を書く問題では、市の平均と比べて8.1ポイント低かった。	・要点を落とさないようにするメモの取り方や他者の意見との共通点や相違点を聞くなどのポイントについて指導するとともに、様々な話し合いの場を設定し、能力の向上を図る。
書くこと	本領域の平均正答率は、市の平均よりも低い。 ○自分の意見とその理由を書く問題や予想される反論に対する意見を書く問題では、市の平均と比べて高い。 ●目的に応じて簡単な文章を書く問題では、市の平均正答率を下回った。また、記述式の問題では、指定された条件で書くことの正答率が市の平均より低い。	・目的に応じた文章の書き方を指導したり、指定された長さや段落で文章を書いたりする学習活動を意図的に設定したりする。
読むこと	本領域の平均正答率は、市の平均よりも低い。 ○文章の情報を整理して答える問題では、市の平均正答率と同等であった。 ●物語文における登場人物の心情について描写を基に捉える問題や、説明文における叙述を基に文章の内容を捉える問題では、市の平均と比べて低く、どちらも15ポイント以上下回った。	・物語文では、心情を表す描写を取り上げ、そのときの心情についてじっくり考えさせるなど、丁寧に指導を行う。説明文では、段落ごとの内容や文章の構成などについて確認し、要点を理解できるようにしていく。

# 宇都宮市立陽光小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	75.0	71.6	69.6
	農業や水産業	87.5	86.7	83.7
	工業生産	82.6	85.0	79.5
	産業と情報との関わり	83.3	87.7	77.4
	日本の政治	62.0	68.9	71.7
	日本の歴史	69.3	66.7	66.3
観点別	知識・技能	79.7	78.0	76.7
	思考・判断・表現	62.5	66.4	63.1

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

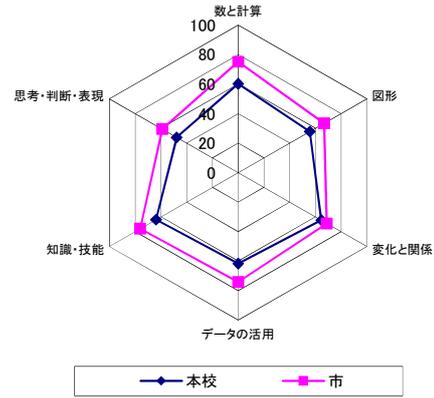
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	本領域の平均正答率は、市の平均よりも高い。 ○選択問題はほとんどの問題で市の平均よりも高い正答率となっている。 ●国土の湖の名称を記述式で答える問題では、市の平均正答率よりも3ポイント以上低い正答率となっている。	・概ねよく理解できている分野ではあるが、5年生の授業でも地名を覚えるのを苦手としていた児童が多いため、繰り返し復習する機会を設けていく。
農業や水産業	本領域の平均正答率は、市の平均と大きな差はない。 ○どの問題も市の平均正答率と同等か、若干高い正答率となっている。	・概ねよく理解できている分野ではあるが、しっかり復習を行い、知識を定着させていきたい。
工業生産	本領域の平均正答率は、市の平均よりもやや低い。 ○自動車の製造行程については平均正答率が95.8%と、市の平均より6ポイント以上高い。 ●それ以外の問題については4～9ポイントほど低い平均正答率となっている。	・自動車の製造工程については、5年生のときにオンライン工場見学を行った。実際に映像を見たものについてはよく記憶に残っているようなので、ICTを有効活用し、映像資料を使って学習を進めていく。
産業と情報との関わり	本領域の平均正答率は、市の平均よりも低い。 ●どの設問においても、市の平均正答率よりも低い値を示している。 ○メディアの特徴については市の平均を下回っているものの、90%を超える正答率となっている。	・市の平均正答率を大きく下回っていた情報の受信や発信に関する設問は活用問題であった。深い学びになる授業を行うことで、知識の定着を図っていく。
日本の政治	本領域の平均正答率は、市の平均よりも低い。 ○内閣の働きに関する設問は、平均正答率が41.7%と低めなもの、市の平均と大きな差はない。 ●それ以外の政治や憲法についての設問は、5ポイント以上低い正答率である。特に天皇の地位の平均正答率は47.9%で、15.1ポイントも市の平均から低い。	・政治と自分たちの生活が結びついていない児童が多い。授業でも、政治に関する用語を初めて聞いた、もしくは意味を初めて知ったという児童も多かった。ニュースや政治に興味をもてるような声掛けや話題を提供していきたい。
日本の歴史	本領域の平均正答率は、市の平均よりも高い。 ●鎌倉時代に関する設問は、2問とも平均正答率が市と比べて10ポイント以上低い。 ○それ以外の時代は、市の平均正答率よりもすべて高い値を示している。特に縄文から古墳時代にかけての2問は7ポイント以上高い。	・鎌倉時代に関する設問は、資料を見て答える問題と記述式の問題で、どちらも思考・判断・表現の観点の問題であった。普段のテストでもこのような問題は苦手としている児童が多い。知識として教えるだけでなく、自分で調べ、まとめる学習を積極的に取り入れていく。

# 宇都宮市立陽光小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	60.2	75.1	75.8
	図形	55.6	66.8	68.3
	変化と関係	64.6	68.8	65.0
	データの活用	61.6	74.1	63.6
観点別	知識・技能	63.7	76.1	75.8
	思考・判断・表現	47.7	59.0	51.7

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

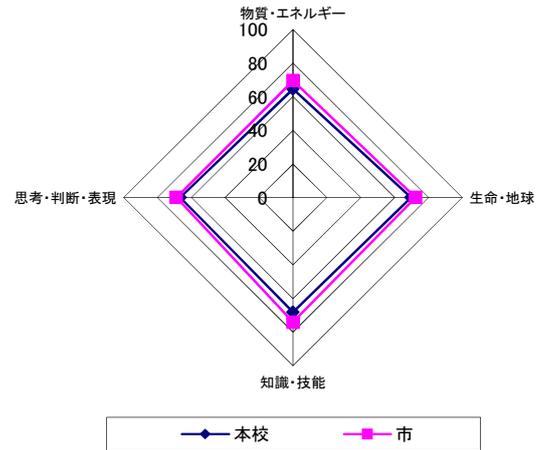
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	<p>本校の平均正答率は、市の平均正答率を下回っている。</p> <p>○小数どうしのわり算の正答率は市の平均正答率と同等である。</p> <p>●分数どうしのわり算や図や文字を使って除法の立式をする問題の正答率は、低くなっている。</p>	<p>・授業だけでなく、朝の学習や家庭学習も活用し、繰り返し取り組ませることで計算力の定着を図るようしていく。</p> <p>・文章問題では、絵や線分図を書いて数量関係を視覚的にも分かるようにし、立式できるよう指導していく。</p>
図形	<p>本校の平均正答率は、市の平均正答率を下回っている。</p> <p>○線対称と点対称について理解し、既習の図形から線対称でも点対称でもある図形を選ぶ問題の正答率は市の平均を上回っている。</p> <p>●三角形の内角の和を利用し、外角を求める問題や、高さが図形の外にある三角形の面積を求める問題の正答率は低い。</p>	<p>・今後も線対称な図形や点対称な図形を繰り返し作図する作業を通して学習の定着を図るようしていく。</p> <p>・三角形の内角の和を使って三角形の外角やその他の多角形の角度を求められることを授業で再確認し、プリントなどで多くの問題を解くことで定着を図るようしていく。</p>
変化と関係	<p>本校の平均正答率は、市の平均正答率とほぼ同様である。</p> <p>○速さと道のりから時間を求める問題の正答率は市の平均とほぼ同様である。</p> <p>●表から面積と数の割合を求め、混み具合を考察する問題や基準量と比較量から割合を求める問題の正答率は市の平均より下回っている。</p>	<p>・速さを求める公式や割合を求める公式をただ暗記するのではなく、なぜそれぞれの公式になったのか考えさせることで応用できるようにしていく。</p> <p>・速さや単位量の問題では、問題を多く解いたり、友達と一緒に考えるなど授業内容も工夫したりしながら定着を図るようしていく。</p>
データの活用	<p>本校の平均正答率は、市の正答率を下回っている。</p> <p>●平均値・中央値・最頻値を求める問題の正答率は市の平均を下回っている。</p> <p>●問題の場面を理解し、平均を用いて道のりを求める問題の正答率は、市の平均を下回っている。</p>	<p>・データの見方の問題では、内容を忘れてしまっている児童が多く見受けられたので、代表値の意味や求め方、ドットプロット図、度数分布表の特徴を復習する。</p> <p>・問題文の理解が難しい児童には、問題文や資料にラインを引きながら場面を想像するよう促す。</p>

# 宇都宮市立陽光小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

## ★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	64.6	69.5	65.2
	生命・地球	69.7	72.3	70.1
観点別	知識・技能	68.1	74.0	70.7
	思考・判断・表現	66.6	68.7	65.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>本領域の平均正答率は、市の平均よりも低い。</p> <p>○物の燃え方に関する問題については、市の平均と比べて正答率が高いものが多い。</p> <p>●水溶液の性質に関する問題は、どの問いも市の平均と比べて正答率が低い。</p>	<p>・児童が見通しをもって問題解決ができるように、学習課題に対して仮説を立て、観察・実験、まとめまでの流れがスムーズにつながるような指導を繰り返す。</p> <p>・既習事項や資料をもとにして、予想したり観察したりする場面を増やしていく。</p> <p>・問題文を正しく読み取り、答えを説明するために必要な言葉を明確にさせ、問いに沿った説明ができるようにしていく。</p>
生命・地球	<p>本領域の平均正答率は、市の平均よりも低い。</p> <p>○生物とかんきょうに関する問題では、どの問いも市の平均点を上回っている。</p> <p>●動物の体のつくりとはたらきの臓器に関する問題や植物のつくりやはたらきに関する応用問題は、市の平均と比べて正答率が低い。</p>	<p>・学習内容の定着を図るため、生活の中で学習内容を活用できる場面を考えるなど、実感が伴う指導を行うようにする。</p> <p>・A1ドリルなどを活用して、理科の用語や用具の使い方の知識が定着するようにしていく。</p>

## 宇都宮市立陽光小学校 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・授業改善	<ul style="list-style-type: none"> <li>・導入で学習課題(ねらい)の共有を図る。</li> <li>・効果的な学習の振り返りを促す。</li> <li>→どの教科でも振り返る時間を設定する。</li> <li>内容・感想・次時に何を学ぶかを書くようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生以上の学年において「学校の授業がどの程度分かりますか。」の質問項目では、肯定割合が90%以上であり、授業内容は概ね理解している。</li> </ul>
・「書く」力の向上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書き方パターンから指導する。</li> <li>→書く型を身に付ける。(安心して分かりやすくどの子にも書ける支援)</li> <li>・自分で考える習慣を身に付けさせる。</li> <li>→自分の考えを書く時間を授業中に設定する。</li> <li>・消したり書き直したりする負担を減らすために、ICTを活用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生以上の学年において「じゅ業で習ったことを、自分なりに分かりやすくノートなどにまとめている。」の質問項目では、肯定割合が69.4%～88.7%であった。概ね「書く」習慣ができています。</li> </ul>
・ICTの効果的な活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スクールタクトなどを活用し、学習指導の充実を図る。</li> <li>・AIDリルを活用し、学習の定着を図るようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年生以上の学年において「インターネットやパソコンを用いて、学習にかんするじょうほうをえている。」の質問項目では、3年生が77.4%、4年生が83.9%、5年生が82.2%、6年生が86.3%であった。高学年に上がるほど文章入力や学習のまとめ、発信にまで活用することができる。</li> </ul>

### ★国・県・市の結果を踏まえての次年度の方向性

<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語と算数で基礎・活用ともに学力低下が認められた。(6年生)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童の習熟度に合わせた少人数指導によるきめ細かな指導</li> <li>・言語活動の充実(書く活動の工夫)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元毎にレディネステストを行い、担任と少人数担当との連携を密に取りながら一人一人の学習状況に合わせた指導に取り組む。</li> <li>・読み・書きに特化した授業改善を図る。折に触れ、低学年は文字慣れと視写、中学年は読書習慣と行事作文、高学年は文脈を捉えた感想交換と意見文に取り組ませる。</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童質問紙から授業への取り組みや学習に対する気持ちや態度は、市の平均と同等であったが、深い学びにつながっていない様子が日々の授業からうかがえる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業力向上を目指した校内研修の充実</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分かりやすくきめ細かな指導を目指した授業改善に努めていく。</li> </ul>